

三二九九番

見渡しに 妹らは立たし この方に 我は立ちて
おも そら やす いも た た
思ふ空 安けなくに 嘆く空 安けなくに さ丹
ぬ をぶね たまま をかぢ に
塗りの 小舟もがも 玉巻きの 小梶もがも 漕
ぎ渡りつつも 語らふ妻を
わた かた つま